



おもいやり隊のメンバーや町長らと楽しそうに話しながら、カレーをたいたらげ、おかわりをしていました。野菜が苦手な児童も「これは美味しい」と話し、完食していました。児童らは「野菜がたくさん入っていておいしかったです。ぼくも美味しい野菜を作ってみたいとおもいました」と笑顔で話していました。

提供野菜をカレーでぺろり

給食おもいやり隊が武田小を訪問

町内でもとれた食材を学校給食へ提供している「給食おもいやり隊」の佐藤イネ子さん、田中恵津子さん、加藤琢磨さん、木村てつさん、田中千鶴さん、加賀美末子さんが8月30日(水)、武田小学校を訪れ4年生14人と給食の時間を共にしました。濱館町長や米塚教育長も参加したこの日の献立は、おもいやり隊のメンバーが育てたトマトやカボチャ、ジャガイモ、ナスを使った夏野菜カレー。児童らは、

教訓胸に発展目指して

戦没者追悼式

町戦没者追悼式が、8月25日(金)中央公民館で行われました。式には、遺族会や関係者ら約90人が追悼に訪れました。国歌斉唱、黙祷に続き、遺族会主催の慰霊祭が行われ、各代表者が玉串を捧げました。式辞では、濱館町長が「戦争を二度と繰り返さないためにも、記憶を次世代に継承していくことが重要な使命。先人たちが築きあげた歴史、文化、施策を糧に誰もが安心して暮らせるまちづくりに向けて力強く歩んでいく」と述べました。また、県知事、県遺族連合会、中泊町遺族会が追悼の辞を述べました。最後は、参列者全員が慰霊碑に菊の花を献花し、祈りを捧げていました。



浜の活力再生に向けて

小泊漁協組合が事例発表

地域の漁業所得の向上を目指した「浜の活力再生プラン」の東北地区推進会議が8月21日(月)、宮城県仙台市で行われ、当町からは小泊漁業協同組合の成田直人組合長と小林寿伸総務課長が出席しました。会議では、事例報告として、成田組合長が中泊メバル膳の開発から現在までの波及効果、中泊活ハマクラブの設立から、自立までの経過などを発表しました。特にメバル膳は注目され、その後行われたパネルディスカッションでは、質問が相次ぎました。会議に出席した成田組合長は「どの地域も力を入れていた。その中で注目を得られたことは良かったと思う。

5年後を考えながら、地域の漁業所得向上を目指してがんばっていきたい」と意気込みを話していました。



医師を目指して

弘前南高校生小泊診療所訪問学習

弘前南高等学校2年生の6人が7月11日(火)、小泊診療所を訪れました。これは、「キャリア教育」の一環で医師を目指す生徒に対して実際の業務内容を見聞することにより、深く考えさせ将来に繋げていくことを目的としています。武田所長から地域医療についての説明を受けたり、診察の見学や実際にエコー検査や溶連菌の検査を医師の立場で体験できたことに満足した様子でした。所長は「将来、医療に従事したら、へき地医療に貢献してくれることを期待します」と生徒らに話していました。訪問学習を終えて、生徒らは「診療所だけでなく薬局・介護サービスなども見学でき、とても興味深かった」と話していました。





中央公民館で3泊4日の共同生活

管内小学生が通学合宿

中里地区の小学4～6年生を対象に、9月13日(水)～16日(土)の日程で通学合宿が行われました。今年度で14回目の開催となり、申込者は過去最多の41人となりました。児童たちは4つの班に分かれ、明の星短期大学の学生リーダーらとともに、自宅を離れて4日間を過ごしました。買い出し、食事づくり、身じたくをして学校へ行くまで、児童が中心となって生活しました。最後の夕食には保護者らも招待されました。心配そうに調理室を見ていた保護者の中には、一生懸命料理をする我が子を前に、涙を流している人もいました。

ほっこり笑顔で楽しむ

町図書館によるおはなし会開催

本に触れることが少ない介護施設の人たちにもっと本に親しんでもらおうと、8月29日(火)グループホームさくらに図書館職員が出向いておはなし会を行いました。「みんなでほっこり おはなし会」と題し、和やかな手遊びや昔話、参加型の絵本の読み聞かせが行われ、入所者のみなさんは、終始笑顔がたえない楽しい時間を過ごしました。

また、9月9日(土)には、読書、図書館にもっと親しんでもらおうと「みんなで楽しむおはなし会」が、総合文化センターパルナスで開催され、町内外の読み聞かせ団体5組がお話しを披露しました。この日は、園児からお年寄りまで、幅広い人たちが来場し、プロジェクターやカードを使うなど工夫をこらした絵本の読み聞かせや昔話、楽しい手遊びを楽しんでいました。



巨大「なた豆」見事に成長

成田清則さんが栽培成功

寒地での栽培が難しいとされている巨大豆「なた豆」の栽培に成田清則さん(福浦)が挑戦しました。なた豆は見事に生育し、収穫間近となって近所の話題となっています。なた豆は、マメ科の1年草としては最大級の植物、草丈は5m以上伸び、サヤも30cmから50cmまで大きく成長します。成田さんは「栽培が成功してよかった。これを機に、今後は中泊町の特産として誇れるよう栽培を普及していきたい」と意気込みを話していました。

初秋の自然を満喫

自然探索講座！初秋の十二湖

中央公民館では「初秋の十二湖へ行ってみよう」と題し、9月3日(日)に自然探索講座を行い、19人が参加しました。

天候にも恵まれ、ガイドの案内で十二湖の青池やブナ林、日本キャニオンを約2時間かけて散策しました。

参加者らは「空気がきれいで、心地よい汗をかくことができた。心身ともにリフレッシュすることができた1日となった」と笑顔で話していました。





メロンの甘さにおどろき

子どもたちがイネ子のメロン収穫体験

メロンの収穫を体験してもらおうと、9月25日(月)佐藤イネ子さんが中里こども園の園児らと薄市小学校5年生を自身の畑に招待しました。こども園と小学校から1人ずつメロンを収穫すると、子どもたちは順番にメロンを持ち上げて重さを確認していました。

その後、試食用のメロンを切るとあたりにはメロンの香りが広がり、子どもたちは大興奮の様子。みんなで「いただきます」とあいさつをしたあと、一斉に食べ始め「おいしい、おいしい」とおかわりをしていました。

また、小学生たちは重さクイズも行い、一番近かった児童らにメロンをプレゼントしていました。児童らは「いつも食べているメロンよりも大きくて重かった。味も甘くて美味しかった」と笑顔で話していました。

練習の成果、発揮!

第3回なかどまりっ子水泳記録会

なかどまりっ子水泳記録会が8月27日(日)、中泊町B&G海洋センターで開催されました。第3回目を迎えた今年は天候に恵まれ、参加選手は日頃の練習の成果を存分に発揮しようとゴールを目指して一生懸命頑張りました。記録会終了後にはライフジャケットやペットボトルを利用した自分の身を守る水辺の安全教室を行い、水に対する知識を学びました。

記録会に参加した子どもたちは「たくさん練習して速くなった。来年はこの記録を抜けるようにもっとがんばりたい」と満足そうに話していました。



日本大学生が中泊町を体験

日本大学フィールドワーク

日本大学の学生19人が同大学の小野洋准教授の授業の一環で、8月28日(月)から当町を訪れ、中泊町を体験しました。

学生たちは小泊漁協を訪れ、小泊漁協婦人部にのしのかの作り方や、イカのさばき方を教わりました。のしのかを体験した学生たちは「おもっていたよりも大きくなったので驚いた。味も美味しい」と楽しそうに話していました。美味しくさばいたイカを食べると「おいしい!こんなイカ食べたことない」と新鮮なイカの味に驚いていました。



満開のひまわり畑

芦野河川敷にひまわり植栽

岩木川河川敷の環境美化を目的に、芦野地区の有志一同がひまわりを植栽し、見事な満開を迎えました。今年6月に有志らが協力し、芦野頭首工付近の河川敷地約30a部分を耕作・植栽しました。

ひまわりを植栽した人たちは「耕作・植栽と大変だったが、こんなにきれいに咲いてくれて嬉しい。少しでも多くの人にみてほしい」と笑顔で話していました。

